

# ト新聞

SHIMBUN

発行所  
株式会社コンクリート新聞社  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿2-16-8  
新宿北斗ビル 6F  
電話 03(5363)9711 FAX03(5363)9712  
購読料 年間40,900円(消費税込)

世界中の  
コンクリートファンに...  
<https://www.beton.co.jp>

# 電子システムを開発

## 生コン品質監査 集計省力化

④も電子化

全国生コンクリート品質管理監査会議(辻幸和議長)は生コンJIS(A5308)の次回改正で電子化への対応が検討されていることを受け、「監査結果入力・集計システム」と④マーク電子化・利用回数集計システム」の開発を進めている。立入監査における結果の入力と各地区会議での集計作業の省力化を図るとともに、生コンJISの次回改正で検討されている配合計画書等帳票の電子納品に対応した④マークシステムを検討している。(4面に関連記事)

監査結果入力・集計システムは、通常は紙媒体の監査結果集計表に監査員が手書きで入力しているもの、をタブレットやノートパソコンといったモバイル端末の画面上で行う。現地でも入力した結果はインターネット上のクラウドサーバに記録・保管される。全国会議では、各地区会議がそれぞれにアクセスすることで結果を自動集計でき、集計表の内容を基に、全国会議に提出する様式に転記されるようにすることで作業の省力化が図れるシステムを目指している。

では、各地区会議がそれぞれにアクセスすることで結果を自動集計でき、集計表の内容を基に、全国会議に提出する様式に転記されるようにすることで作業の省力化が図れるシステムを目指している。全国会議では昨年にシステムのプロトタイプを開発して試験運用

し、そこで抽出された課題を踏まえた改良を進めており、今年5月に完了する予定。システムは全国一律ではなく、利用を希望する地区会議がそれぞれ導入して監査の効率化につなげていくことをイメージしている。今後、試験運用に協力する地区会議を募り、来年度

の監査で運用して、問題点や改善点を洗い出し、完成させる考えだ。④マーク電子化・利用回数集計システムは、生コンJIS改正で検討されている配合計画書等帳票の電子納品に対応することを視野に開発を進めている。④マーク画像を電子化してクラウドサーバからダウンロードする形で配合計画書などの表紙に画像データとして貼り付けることを検討している。一度使った④マーク画像を再利用できないようにすることで、各地区会議はダウンロード回数で利用数を把握する。④マークには識別番号

を設定し、乱用を防ぐセキュリティ機能も付ける。施工者情報(施工者名、工事名、納入時期など)を④マークの識別番号と紐付けさせることも検討しており、生コン工場の情報を検索できるようにしていく考え。システム開発は監査結果入力・集計システムの方が先行しており、④マーク電子化・利用回数集計システムは今秋の完成を目指している。全国会議では生コンJIS改正の動向を見据え、先んじてシステムを構築することでスムーズな品質管理監査を遂行できるようにしていく方針だ。

## スランプに顕著な違い

### 東京協組 単位水量の増減で

推定試験を検証

東京地区生コンクリート協同組合(東京都中央区、斎藤昇一理事長)は16日、コンク

リートの単位水量推定試験を検証する室内試験練習を行った。「推定試験」にもかかわらず、



単位水量が基準範囲から外れたなどの理由で不適合と判定され、返却される事例が増えている。試し練りで単位水量の増減によるフ

持ち帰り管理値を±20kgと設定している。ただし、生コンJISの製品検査項目に単位水量は含まれていない。都内では民間、公共

同推定試験を実施する場合は試験条件などを事前に提示するよう販売店や需要家に求めた。検証は城北小野田レ

ミコンで行われた。土木配合(24・12・20N、AE減水剤)、建築配合(33・18・20N、高性能AE減水剤)で、単位水量はそれぞれ標準、プラス15kg、マイナス15kgの3通り。

5cmと顕著な違いが認められた。同協組は、単位水量の増減によるフレッシュシユ性状の違いを視覚的に理解してもらったため、東京都生コンクリート工業組合の支援を得て制作している今回の検証映像をホームページで公開する予定だ。

5308・Q1011)の必須要求事項でC評価となった工場があつ

C評価が5工場以上の必須要求事項でC評価あるチェック項目は例年よりも項目数は減少

今年度の監査でも昨年度と同様に、①監査の中立性・公正性・透

関東、東海、近畿、中国、四国、九州)に、件と、依然として減つ

合格となったものが1区会議を除き概ね例年

のご努力により、結果は来年度の監査におい

ても継続していく考え

# 必須に

## 竹分離の有無確認

に表現を改める。「あらはじめ定めた間隔に」に係わる表記をA0201(品質方針)などと整合するように「経03(社内規格の見直し)やB3102(セメントの受入検査)など」に整合する表記とす

るとともに、「トップマ ネジメント」をA0101(品質方針)などと整合するように「経03(社内規格の見直し)やB3102(セメントの受入検査)など」に整合する表記とす

と整合するように「経03(社内規格の見直し)やB3102(セメントの受入検査)など」に整合する表記とす

と整合するように「経03(社内規格の見直し)やB3102(セメントの受入検査)など」に整合する表記とす

# 電子化対応に着手

## 結果集計システム開発

生コンJISの次回改正において電子化への対応が検討されています。全国会議でも電子化システムが検討されていると聞いています。その概要をお聞かせください。

「監査結果入力・集計システム」と「④マーク電子化・利用回数集

計システム」の開発を進めている。将来的な電子化への対応を見据えてのもので、監査結果入力・集計システムについては昨年プロトタイプが完成し、試験的な運用を行っている。

監査結果入力・集計システムは、現状では紙媒体の監査結果集計表に監査員が結果を手書きで入力しているものをタブレットまたはノートパソコンといった携帯端末の画面上で行うというものである。現地で入力した監査結果はインターネット上のクラウドサーバに記録・保管され、各

## ④利用数を把握へ 電子納品視野に検討

課題を踏まえてシステムの改良に着手しており、今年5月にはそれが完了する予定である。今後は試験運用に協力をしてくれる地区協議を募り、来年度の監査で試行して問題点や改善点を抽出していきたい。システムについては全国で一律に運用するという考えはなく、希望する地区協議がそれぞれ導入して監査の効率化につなげていくことを期待している。

現在開発中のシステムでは、④マーク画像を電子化してクラウドサーバからダウンロードする形で電子化された配合計画書の表紙などに画像データとして貼り付けられるようにすることを目指している。

一度使用した④マーク画像は再利用できなく、ダウンロードの回数によって利用数を把握する。④マークの年度や工業組合名、工場名、累積ダウンロード数などから構成される識別番号を④マークに付与し、乱用を防ぐ。生コン工場側はIDとパスワードを入力して④マーク画像を使用といった悪用への有効な対策が困難であることという問題がある。購入者にとっても、全国統一品質管理監査の合格工場であるという情報しか入手できない情報が検索できるよう

システム開発については監査結果入力・集計システムの方を先行して進めており、④マーク電子化・利用回数集計システムについては今秋をメドに完成を目指している。④マークの識別番号と施工者情報を紐づけるには、生コン工場が配合計画書の作成などを行うための品質管理システムとの連動が必要であると同時に、そのような品質管理システムを導入していない生コン工場での対応も問題になる。各地区会議からも意見が出ているので、今後はアンケート調査を行って、システムに対する意見や要望を募りたい。生コン情報の電子化の動きは進んでおり、それを見据えて先んじてシステムを構築することで業界としてスムーズに対応できるようにしていきたい。